

年金記録訂正請求に係る答申について

中国四国地方年金記録訂正審議会
令和7年11月25日答申分

○答申の概要

(1) 年金記録の訂正の必要があるとするもの 1件

厚生年金保険関係 1件

厚生局受付番号 : 四国（受）第 2500011 号
厚生局事案番号 : 四国（厚）第 2500009 号

第1 結論

請求者のA社における令和3年12月30日及び令和5年2月28日の標準賞与額を30万円に訂正することが必要である。

令和3年12月30日及び令和5年2月28日の標準賞与額については、厚生年金保険の保険給付及び保険料の納付の特例等に関する法律第1条第5項の規定により、保険給付の計算の基礎となる標準賞与額として記録することが必要である。

事業主は、請求者に係る令和3年12月30日及び令和5年2月28日の標準賞与額に基づく厚生年金保険料を納付する義務を履行していないと認められる。

第2 請求の要旨等

1 請求者の氏名等

氏 名 : 女

基礎年金番号 :

生年月日 : 昭和53年生

住 所 :

2 請求内容の要旨

請求期間 : ① 令和3年12月30日

② 令和5年2月28日

請求期間①及び②について、A社から賞与が支給されたが、同社は当該賞与に係る厚生年金保険料の徴収権が消滅した後に届出を行ったため、厚生年金保険の記録では保険給付の対象とならない記録（厚生年金保険法第75条本文該当）となっている。請求期間①及び②の賞与から厚生年金保険料が控除されていたので、保険給付の対象となる記録に訂正してほしい。

第3 判断の理由

A社が保管する、2021年度冬季賞与明細書（令和3年12月30日支給）及び2022年度冬季賞与明細書（令和5年2月28日支給）によると、請求者は、請求期間①及び②において同社から30万円の賞与の支払を受け、当該賞与額に見合う標準賞与額に基づく厚生年金保険料を事業主により賞与から控除されていたことが認められる。

なお、事業主が請求者に係る厚生年金保険料を納付する義務を履行したか否かについては、事業主は、令和3年12月30日及び令和5年2月28日について、請求者の厚生年金保険被保険者賞与支払届を年金事務所に対し、保険料を徴収する権利が時効（2年）により消滅した後の令和7年6月3日（受付）に提出し、厚生年金保険料についても納付していないことを認めていることから、年金事務所は、請求者の令和3

年 12 月 30 日及び令和 5 年 2 月 28 日の期間に係る厚生年金保険料について納入の告知を行っておらず、事業主は、当該期間に係る厚生年金保険料を納付する義務を履行していないと認められる。